

令和8年度 学校経営方針

西東京市立芝久保小学校
校長 清原 周栄

～学校経営の基本的な考え方～

『自らを律し、共に学び合う児童の育成』～生きる力を育む～

学校目標

○粘り強く考える子

自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる

◎仲良くする子

生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる

○元気に活動する子

健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、すすんで心身を鍛える児童を育てる

めざす児童像

- 1 自ら学び、確かな学力を身に付ける児童
- 2 自他の生命を尊重し、豊かな人権感覚をもつ児童
- 3 健康と安全に心掛け、体力の向上に努める児童

めざす教師像

- 1 教科指導や児童指導に専門的な力をもつ教師
- 2 児童理解を深め、児童の心を開く、信頼される教師
- 3 使命感と責任感をもち、研鑽に努める教師

目指す学校像

一人一人の児童を全教職員で担任（チーム芝久保）し、児童が自分の大好きを見つけられる学校
4つの「あ」を大切に、児童を成長させる「あったか先生」のいる学校

「児童が自分の大好きを見つけられる学校づくりを目指して」

◇「安心して挑戦できる教室づくり」

好きなことは、安心できる環境でこそ見つけられます。そのために大切なのは「友達の考えを大切にする雰囲気」「教師が一人一人を認める関わり」「失敗しても笑われない教室」など、安心して挑戦できる教室づくりに努めます。

◇「『一人一人が違ってよい』と認められる教室づくり」

児童の「好き」は様々です。「給食が好き」「工作が好き」「人の役に立つことが好き」「生き物が好き」「体を動かすことが好き」など、それぞれの良さを認める環境づくりに力を注ぎ、児童の自己肯定感や自己有用感を育てていきます。

◇「『たい』を大切にする授業（知識・技能、行動、情報、自己実現）づくり」

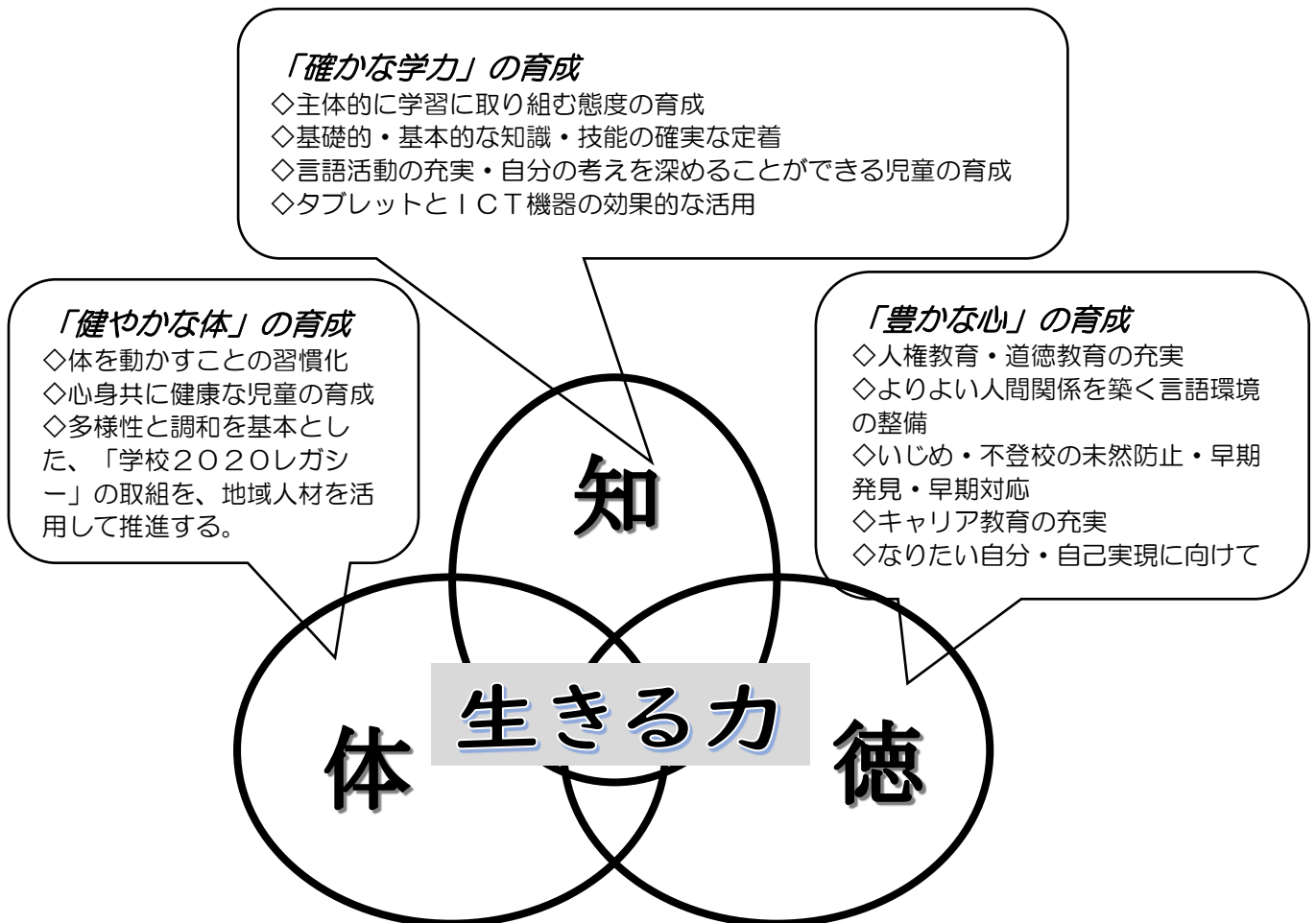
→「教師の生命線は授業である」（児童との信頼関係構築・教師の自己研鑽の場・児童の心に火をつける）児童の「なんでだろう」「やってみたい」という気持ちが尊重される授業。正解だけを求めるのではなく「試してみる」「失敗から学ぶ」「自分なりの考えをもつ」など、こうした経験ができる環境があると、児童は自分の興味や得意なことに気付きます。

◇「多様な経験ができる教材開発・教育課程づくり」

好きなことは、出会いがないと見つかりません。「探究的な学び（ふるさと探究学習）」「体験活動（地域体験・様々な人との関わり・ものづくり）」「読書や表現活動」「体育的・文化的行事」いろいろな経験の中で「これが好きだ」「もっとやりたい」が生まれるような授業実践に挑戦します。

4つの「あ」とは、

- ◆児童に「愛情」を注ぐ学校→認められる・励まされる・味方がいる・良好な人間関係
- ◆児童が「安全」で「安心」して過ごすことができる学校
→安全指導・安全点検・事故防止・整理整頓・美化活動等
- ◆互いに「あいさつ」や「温かい言葉」が交わし合える学校→あいさつや言葉遣い
- ◆「ありがとう」という感謝の気持ち大切にしたい学校
→規範意識・基本的集団生活の定着・集団生活のルール



生きる力

平成10年に初めて登場した「生きる力」という文言が、2度の改定を経て現学習指導要領にも謳われています。これまで、生きる力を育むための要素として「自主・自立」「バランスのとれた知力・徳力・体力」「課題設定と解決」「基礎基本の定着」「自ら学び自ら考える」など、その時々キーワードが盛り込まれてきました。今回の改定では「予測困難な時代」の中で「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を身に付けさせることが求められています。

時代の背景や要請に応じてその解釈が変化もするが、芝久保小学校では「生きる力」を、その時々状況・条件を的確に判断・活用し、周りの人と協力・協働しながら解決を図っていく力、あるいはその過程で身に付く力と考えていきます。

→スローガン【「自らを律し共に学び合う児童の育成」～生きる力を育む～】

また、そのときに身をもって味わったり体験したりした「努力」「工夫」「継続」「協力」「協働」「協調」「妥協」「達成」「成就」「失敗」「挫折」「我慢」などの様々な姿勢・感情と育まれた感性そのものが「生きる力」だと考えます。このような「生きる力」を一人一人の子どもに着実に身に付けさせることが、芝久保小学校での使命です。

喜びと安心

子どもたちに生きる力を育む学校には、「よろこび」と「あんしん」の保証が不可欠です。学校での学びや活動に「できた」「わかった」と思わず歓声上がるような喜びがあること、その学びや活動に安心して全力で集中できるような物心の環境が安心できるものであることを、子どもたちに保証していきます。

未来を描く

また、一つ一つの学習活動において「目標（めあて）」の設定と達成への過程、結果としての成功（ときには失敗）体験と振り返りを大事にしていきましょう。その積み重ね（PDCA）が子どもの成長を促し、めあて意識は「先を見通す力」を育みます。そのPDCAのサイクルを、学校生活の中で繰り返し経験することで、将来の夢や「なりたい自分」を創造していく意欲や力へと繋がっていくものと考えています。未来へと続く道を、夢やなりたい自分を思い描きながら歩むことは、人生を豊かにする大切な要素です。これからの予測困難な「未来」を担い、人生を切り開く「生きる力」を子どもたちに育むために、チーム芝久保、全教職員で一丸となって進みましょう。すべては、子どもたちの輝く瞳とかがやく笑顔のために。

合(愛)言葉

「ほめて伸ばす」 「授業で勝負」 「間違うのが子ども」

1 目指す学校像

【一人一人の児童を全教職員で担任（チーム芝久保）し、
児童が自分の大好きを見つけられる学校
4つの「あ」を大切に、児童を成長させる「あったか先生」のいる学校】
学校教育の成果を継承しつつ、「不易」と「流行」を見極めて、改革・改善を図る。
創造性と先進性のある学校経営を進め、保護者や地域の信頼に応える学校を目指す。

2 学校の経営目標

(1) 教職員の指導力の向上

- ①カリキュラム・マネジメントを進め、教材や指導法を工夫し、授業改善を進める。
- ②特別な支援が必要な児童のために、個々に適した指導法の工夫や改善を行う。
第2学年より読み書きアセスメントを実施する。→一人一人の読み書きの様子を丁寧に見取ることで、「どこがよくできているか」「どこで困っているか」が具体的に分かります。
- ③タブレットなどを活用した指導を積極的に取り入れ、より効果的な指導を探る。
- ④校内研究を通して、自分の考えを深めることができる児童の育成を目指す。

(2) 生活指導及び特別支援教育の充実

- ①本校の生活のきまりを全教職員が共通理解し、共通した指導を実践する。
- ②特別支援教育、虐待防止やいじめ対策について全校で組織的に対応する。
- ③よさを認め「ほめて伸ばす」を合言葉に、あたたかな心を育む指導を実践する。
- ④報告・連絡・相談を徹底し、課題発生時の初期対応を学年体制で丁寧に行う。

(3) 児童の健康と安全の増進

- ①体力づくり、健康や食に関して計画的に指導し、児童・保護者への啓発を進める。
- ②教育環境や設備の点検、整備を定期的の実施し、安全な学校づくりを推進する。
- ③「自分の命は自分で守る」意識をもち安全のため自ら行動する児童の育成を図る。

(4) 保護者、地域、他機関との連携

- ① 保護者、地域へ教育活動を積極的に公開し、外部人材の活用を推進する。
- ② コミュニティ・スクールの強みを生かし、保育園、幼稚園、中学校との連携を深めるとともに、西東京市小中連携教育を進める。

(5) 効率的な学校運営組織の構築、校務改善

- ① 報告、連絡、相談を密にし、迅速対応に徹する。記録を忘れない。
- ② 企画委員会、経営支援部を中心に、働き方改革・校務改善を進める。
- ③ 校務改善（ペーパーレスの促進、校務支援システム活用、夕会の精選（火・金）、メールによる欠席連絡・・・）
- ④ 教材費会計の引き落としの適正な実施と事務管理
- ⑤ 私費負担教材等のスリム化推進
 - ・ 使用教材の精選、使用教材の決定・発注の起案・決裁化

3 本年度の学校経営の重点

(1) 健康で安全、健やかな体を育む学校生活、

- ① 挨拶や言葉遣い、整理整頓について指導を徹底し、社会性や規範意識を育てる。
 - ・ 指導事項を共通理解し、組織的な生活指導を行う。小中連携教育を意識する。
- ② 体力向上の取組、健康教育及び、食に関わる実践的な指導を推進する。
 - ・ 担任と養護教諭、栄養教諭との連携を強化し、指導の充実を図る。
- ③ 訓練や安全指導に加え、日常的に児童の危機管理と防災、防犯意識を高める。
 - ・ 多様な不測の事態に対応し、個々の身を守るための手段を体得させる。
- ④ 一人一人の思いや願いに寄り添う、特別支援教育の充実を図る。
 - ・ 教育支援コーディネーターを中心に、校内委員会で組織的・継続的に取り組む。
 - 読み書きアセスメント実施に、全校体制で取り組む。
 - ・ 個別の指導計画、教育支援計画の活用（保護者との情報共有）
 - 特別支援教室「けやき教室」と連携し、一人一人の得意なことや苦手なことへの気づきを大切にしながら、自信や意欲の向上を図るとともに、コミュニケーション能力や社会性を育み、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導を行っていく。
- ⑤ 全ての児童が落ち着いて学習に臨めるように、教育環境の整備・充実を図る。
 - ・ ユニバーサルデザインを意識し、教室や校舎内を整頓する。
- ⑥ 児童・保護者・教職員の負担やライフワークバランスを考え、保護者・地域に開かれた学校、異学年交流を充実させるための取組を行う。

(2) 確かな学力と豊かな心を育む教育活動

- ① GIGA スクール構想を実践して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
 - ・ 不易と流行をベストミックスさせて、新しい指導の在り方を探求する。
- ② 教職員相互で研鑽を深め、学習指導力の向上と授業改善を進める。
 - ・ 校内研究を中心として、自分の考えを深める児童の育成の充実を図る。

- ③道徳教育を中心に、カリキュラム・マネジメントを進める。
 - ・教育活動全体で行う道徳授業の充実を期し、全体計画別葉を作成し実践する。
- ④「あったか先生」を意識した指導で、あたたかで適正な人権感覚の育成を図る。
 - ・「率先垂範」 自らを律し、手本となる行動で示す。
 - ・学齢に応じ様々な人権課題について考えさせ、人権尊重の精神を育む。
 →SC、巡回指導教員を講師とした研修
 - ・ペア学年の年間を通じた取組による豊かな心の育成
 - ・学期初めの個人面談による、自殺防止のための取組
- ⑤創意ある教育活動を実践する。
 - ・SDGs 持続可能な社会の実現のため、教育活動全般でカリキュラム・マネジメントを意識し、異学年交流と情操教育の充実、体力向上、ESDを推進する取組を強化する。
- ⑥全教科全領域で、「多様性と調和」を基本とした「学校2020レガシー」の取組を、地域人材を活用して推進する。
 - ・教育活動全般で、業間体育、障がい者理解、環境問題を扱う。

(3)教育課程の円滑な進行管理

- ①児童の学習活動を保障するため、授業時数を厳正に確保する。
 - ・年間の指導計画を綿密に作成し、適切な単元計画、週案を立案・実施する。
- ②校内組織を有機的に運営し、働き方改革を意識した校務改善に取り組む。
 - ・各主任が担当部門を統括し、他分掌との連携を深め、仕事内容の精選を図る。

(4)開かれた教育課程の推進（コミュニティ・スクールの強みを生かす）

- ①保護者や地域に積極的に授業や行事を公開し、教育活動への理解と協力を得る。
 - ・外部人材を活用した授業や保護者参加型の授業を全学年で実施する。
- ②学校関係者評価を活用し、教育課程の見直しや改善を進める。
 - ・保護者や児童から教育活動の評価を受け、多様な視点で教育活動を改善する。
 - ・児童・保護者・教職員の負担や、時代のニーズに合わせた新しい芝久保小学校の教育活動を構築する。

4 教職員の心構え

(1)教育公務員としての自覚

- ①児童に対する愛情、教育への意欲と情熱をもち、日々研修に努め、専門性を磨く。
- ②調和と協調の精神に基づき、組織の一員として自己の能力を最大限に発揮する。

(2)サービスの厳守と謙虚な姿勢

- ①教育公務員としてサービスを厳守し、サービス事故0（ゼロ）とする。法規と学習指導要領に則り職務に専念する。
- ②市民や保護者に対する説明責任を果たし、丁寧かつ誠実に対応する。
- ③学校の教育活動における責任は全て校長にある。このことを念頭に、報連相を徹底するとともに、教職員が安心して伸び伸びとした教育活動を行う。